

令和3年度

第1回 帯広市地域公共交通活性化協議会（書面協議）次第

1 議事

【報告事項】

- (1) 令和2年度事業報告について
- (2) 令和2年度決算報告について
- (3) 令和2年度監査報告について
- (4) 令和2年度帯広市地域公共交通網形成計画に係る事業実施状況について

【協議事項】

- (1) 令和3年度事業計画（案）について
- (2) 令和3年度収支予算（案）について
- (3) 令和3年度帯広市地域公共交通網形成計画に係る事業実施内容(案)について
- (4) 新型コロナウイルス感染症による公共交通機関への影響等について
- (5) 「帯広市地域公共交通網形成計画」計画期間終了後の取組等について

《配付資料》

- 資料1 委員名簿
- 資料2 協議事項説明書
- 資料3 令和2年度事業報告
- 資料4 令和2年度収支決算書
- 資料5 会計監査報告書
- 資料6 令和2年度帯広市地域公共交通網形成計画に係る施策の実施状況
- 資料7 帯広市地域公共交通網形成計画 評価指標達成状況
- 資料8 令和3年度事業計画（案）
- 資料9 令和3年度収支予算書（案）
- 資料10 令和3年度帯広市地域公共交通網形成計画に係る施策の実施内容（案）
- 資料11 帯広市地域公共交通網形成計画 事業スケジュール・進捗状況一覧表
- 資料12 新型コロナウイルス感染症による公共交通機関への影響等について
- 資料13 「帯広市地域公共交通網形成計画」計画期間終了後の取組等について
- 資料14 帯広市地域公共交通網形成計画（抜粋）

令和3年度 帯広市地域公共交通活性化協議会 委員名簿

所 属	職 名	氏 名	備 考
十勝バス株式会社	取締役執行役員 事業本部長	長沢 敏彦	
北海道拓殖バス株式会社	業務部長	小森 明仁	
大正交通有限会社	代表取締役	道見 茂美	
毎日交通株式会社	専務取締役	千葉 和也	
十勝地区バス協会	事務局長	寺山 康浩	
十勝地区ハイヤー協会	常務理事	塚本 俊二	
帯広市町内会連合会(住民代表)	副会長	齊藤 雅俊	
北海道運輸局 帯広運輸支局	首席運輸企画専門官	酒井 啓友	
北海道地方交通運輸産業労働組合協議会 十勝地区交通運輸産業労働組合協議会	議長	久保 真司	
北海道 十勝総合振興局 地域創生部 地域政策課	主幹	山田 貴裕	監査
帯広開発建設部 道路計画課	課長	小林 将	
帯広警察署 交通第一課	課長	浅野 慎哉	
帯広市 都市環境部環境室環境課	課長	西島 新一	
帯広市 市民福祉部地域福祉室地域福祉課	課長	永田 敏	
帯広市 市民福祉部福祉支援室介護高齢福祉課	課長	内藤 真也	
帯広市 経済部商業労働室商業労働課	課長	烏本 貴敬	
帯広市 経済部観光交流室観光交流課	課長	大林 健一	
帯広市 学校教育部教育総務室企画総務課	課長	佐藤 克己	
帯広市 都市環境部	部長	和田 亮一	会長

協議事項説明書

1 報告事項

(1) 令和2年度事業報告について

資料3「令和2年度 事業報告」をご覧ください。

昨年度は1回の協議会を実施しております。

第1回協議会では、令和2年度の事業計画と帯広市地域公共交通網形成計画（以下、「網形成計画」とします。）に基づく施策や取組について協議・確認いたしました。

このほか、本協議会実施事業として、令和3年1～3月に中高生、転入者及び高齢者を対象として、バス利用の動機付けを目的としたモビリティ・マネジメント小冊子の作成・配布を行いました。

(2) 令和2年度収支決算について

資料4「令和2年度 収支決算書」をご覧ください。

令和2年度の収入決算額については、負担金 70,000 円、雑入として前年度繰越金 17,910 円、計 87,910 円となっております。

支出決算額については、事業費としてモビリティ・マネジメント小冊子作成のための用紙購入費 78,034 円、事務費として口座振込手数料 550 円、計 78,584 円となっております。

収入決算額 87,910 円から支出決算額 78,584 円を差し引いた残額 9,326 円が、令和3年度繰越金となっております。

(3) 令和2年度監査報告について

資料5「会計監査報告書」をご覧ください。

令和2年度の当協議会の会計処理について、監査委員であります十勝総合振興局地域政策課 山田主幹に監査いただき、適正であることをご確認いただいております。

(4) 令和2年度帯広市地域公共交通網形成計画に係る事業実施状況について

資料6「令和2年度 帯広市地域公共交通網形成計画に係る施策の実施状況」、資料7「帯広市地域公共交通網形成計画 評価指標達成状況」をご覧ください。

はじめに、資料6について説明いたします。本資料は、令和2年度の網形成計画に基づく施策の実施状況について記載しております。

計画では4つの基本方針を掲げており、それぞれに目標達成のための施策が設けられています。以下、資料記載内容の補足説明をいたします。

基本方針1 公共交通のサービスレベル向上

1 市内バス路線及びダイヤの見直し

- 十勝バスにおいて、大空地区における令和2年10月1日より大空団地内の自宅と路線バス「大空団地線」のバス停「大空7丁目」とを結ぶデマンド型乗合タクシー「おでかけ楽々便（おおぞライナー）」の実証運行を実施しました。
- なお、新型コロナウイルス感染症の影響により路線バスの利用が大幅に減少していることから、路線の収支改善を図るためのダイヤ改正・減便を実施しています。詳細については、協議事項（4）及び資料12にて説明いたします。

3 バス待合環境の改善に向けた取組

- 十勝バスにおいて、バスターミナルおびくるに設置されているデジタルサイネージにバスの現在位置などの運行情報が表示されるよう改善を行ったほか、イオン帯広店内へのデジタルサイネージ設置を実施しました。
- また、拓殖バスにおいて、バス停付近の歯科医院内へのデジタルサイネージ設置に向けた調整を行っており、バス路線沿線施設における待合環境の改善が進んでいます。

4 ICカードシステムの導入

- 十勝バス・拓殖バスの路線バス全車両及びバスターミナルおびくる窓口においてQRコード決済が導入され、運賃などを支払う際の利便性向上に加え、現金に接触する必要がなくなることから感染症対策にもつながっています。
- このほか、WAONカード決済の実証実験やスマホによる通学定期券の試験導入が実施されており、電子決済の拡大による利便性向上に向けた取組が進んでいます。

基本方針2 生活と交通の拠点の整備

1 乗り継ぎ拠点の設置

- 令和元年度より、市内西地区の交通結節点であるMEGAドン・キホーテ西帯広店を乗り継ぎ拠点とすべく協議・検討してきましたが、駐車場内における自家用車との交通整理が難しく、事故等の危険が生じる懸念があることなどから実施を見送ることとなりました。

基本方針3 市民だけでなく、来街者にも分かりやすい情報提供の実施

1 バスロケーションシステム等の普及

- Googleマップなどの路線検索システムやバスターミナルおびくるなどに設置しているデジタルサイネージにおいて、バスの遅延・運休などに関する運行情報がリアルタイムに表示されるようになり、提供される情報の拡充が進んでいます。

基本方針4 利用促進施策の推進

1 モビリティ・マネジメント施策の展開

- 市内小学校への出前講座「交通環境学習」や、中高生・転入者・高齢者のバス利用促進を目的としたモビリティ・マネジメント（MM）小冊子の作成・配布について、継続して実施しました。
中高生向けの小冊子について、これまで中学3年生及び高校1年生に配布していましたが、令和2年度は高校2年生にも配布対象を拡大しています。

続いて、資料7について説明いたします。本資料は、網形成計画の評価指標の達成状況を示しているものです。

令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により路線バス及びあいのりバス・タクシーの利用が大幅に減少したことから、指標7「ノーカーデー年間参加者数」を除くすべての指標について目標未達成となっております。

2 協議事項

(1) 令和3年度事業報告(案)について

資料8「令和3年度 事業計画(案)」をご覧ください。

令和2年度に引き続き、市民のバス利用促進を目的として、市内の中高生や高齢者、市内への転入者を対象とした小冊子の作成・配布を予定しております。

(2) 令和3年度収支予算(案)について

資料9「令和3年度 収支予算書(案)」をご覧ください。

令和3年度の収入予算額は、負担金110,000円、前年度繰越金9,326円、計119,326円を計上しております。

支出予算額は、事業費としてバス利用の動機付けを図るモビリティ・マネジメント小冊子作成用紙及び配布に要する経費として105,380円、事務費として消耗品費及び振込手数料として13,946円、計119,326円を計上しております。

(3) 令和3年度帯広市地域公共交通網形成計画に係る事業実施内容(案)について

資料10「令和3年度 帯広市地域公共交通網形成計画に係る施策の実施内容(案)」、資料11「帯広市地域公共交通網形成計画 事業スケジュール・進捗状況一覧表」をご覧ください。

はじめに、資料10について説明いたします。本資料では、今年度実施する取組について、計画に位置付けられた4つの基本方針及び目標達成のための施策ごとに記載しております。以下、資料記載内容の補足説明をいたします。

基本方針1 公共交通のサービスレベル向上

3 バス待合環境の改善に向けた取組

- 昨年度に引き続き、市内のバス路線沿線施設におけるバス待合スペースの設置及び待合環境の改善に取り組むほか、帯広駅バスターミナルのりばの分かりやすさを改善するため、のりばの再編を検討予定です。

基本方針2 生活と交通の拠点の整備

- 昨年度に引き続き、乗り継ぎ利便性の向上、大空地区におけるデマンド型乗合タクシー-実証実験、バスとタクシー・JR・自転車等との連携について実施・検討します。

基本方針3 市民だけでなく、来街者にも分かりやすい情報提供の実施

- 昨年度に引き続き、バスロケーションシステムの表示内容改善のほか、各施策項目について内容の充実・改善を図ります。

基本方針4 利用促進施策の推進

1 モビリティ・マネジメント施策の展開

- 昨年度に引き続き、市内小学校への出前講座「交通環境学習」や、中高生・転入者・高齢者のバス利用促進を目的としたモビリティ・マネジメント（MM）小冊子の作成・配布について、継続して実施いたします。
- 実施に当たっては、作成した冊子案を委員の皆様にご確認いただき、ご意見・ご提案などいただきたいと考えております。

続いて、資料11について説明いたします。

本資料では、これまでの計画に係る事業スケジュールと進捗状況の一覧を示しており、黄色の網掛けは事業が完了しているもの、緑色の網掛けは事業内容の改善を図りながら継続実施していくものを表しています。

これまで、計画に掲げる各種施策について着実に取組を進めており、令和3年度については、これまで実施してきた取組の内容充実・改善を図るとともに、市街地におけるデマンド型乗合タクシーの実証実験や、デジタル・アナログ両面からのバス運行情報提供方法の改善などの取組を進めます。

(4) 新型コロナウイルス感染症による公共交通機関への影響等について

資料12「新型コロナウイルス感染症による公共交通機関への影響等について」をご覧ください。

昨年から続く新型コロナウイルス感染症の影響により公共交通機関の利用の大幅な減少が続いていることに加えて、特にタクシー事業者における乗務員の離職が急速に進んでいることから、路線バス・タクシーともに運行維持が大変困難な状況に陥っています。

公共交通事業者において感染症拡大防止のための様々な対策を実施しているほか、運行収支改善を図るため利用状況に合わせた減便・減車を実施しているところですが、感染症が収束せず市民の外出自粛が長期化していることに加え、車内における感染リスクが高そうなイメージがあることから、利用回復が進んでいない状況にあります。

このため、協議会においても、市内公共交通の利用回復・促進に向けて、関係機関と連携しながら、協議会ホームページ（帯広市ホームページ内）や、協議会にて作成予定であるモビリティ・マネジメント小冊子などを活用し、安全・安心な車内環境のPRを実施することについて提案するものです。

また、このほか協議会において実施すべきと考えられる取組がございましたら、ご提案くださいますようお願いいたします。

(5) 「帯広市地域公共交通網形成計画」計画期間終了後における取組について

資料 13 「帯広市地域公共交通網形成計画」計画期間終了後の取組について」をご覧ください。

帯広市地域公共交通網形成計画の計画期間は平成 29 年度～令和 3 年度の 5 年間となっており、令和 3 年度末をもって計画期間が終了いたします。

今年度より、十勝全域を対象とした「地域公共交通計画」の策定が始まりますが、令和 4 年度中に策定予定であるため、計画の空白期間が生じる見込みです。

このため、網形成計画終了後における取組の進め方や、次期計画の策定に関する考え方に関する事務局案について、以下のとおりとしてよろしいか協議するものです。

1 計画期間終了後の取組の進め方について

網形成計画終了後も、引き続き市内の持続可能な公共交通サービスの維持確保や、交通課題の解決に向けた施策を実施する必要があります。

つきましては、計画空白期間における取組の進め方について、「帯広市地域公共交通網形成計画」に掲げる基本方針をベースとして、実施すべき施策について協議会において協議しながら取組を進めることとしてよろしいか、提案するものです。

なお、協議に当たっては、網形成計画に基づくこれまでの取組実績や公共交通の現状・課題を評価した上で、今後の取組について協議・検討することといたします。

2 今後の交通計画策定に係る対応について

資料の【背景】に記載のとおり、今後の交通計画策定に関連して

- ①法改正に伴う計画名称及び内容改正、及び地方公共団体の策定努力義務化
- ②「十勝地域公共交通活性化協議会」における十勝全域の地域公共交通計画作成

といった動きがあることから、これらを踏まえ対応を検討する必要があります。

①に関して、現在の網形成計画では「帯広市内における誰もが利用しやすく持続可能な公共交通の実現」を計画策定の目的としていますが、法改正後の「地域公共交通計画」については、市町村を跨がる広域的な移動と、地域住民の日常の生活圏における狭域的な移動それぞれについて、多層的に扱った計画策定が望ましいものとされています。

また、②に関して、十勝総合振興局を中心とする「十勝地域公共交通活性化協議会」において、今年度に十勝管内の公共交通等に関する調査事業を実施し、年度末を目途に調査結果を活用した十勝全域を対象とする地域公共交通計画の素案を作成する予定と伺っています。

この十勝地域の交通計画において、帯広市内の公共交通の課題や、課題解決に向けた施策が盛り込まれる場合は、帯広市単独の交通計画に代えて、十勝地域の交通計画を帯広市における公共交通施策のベースとする考えられます。

以上より、今後の交通計画策定に係る対応について、十勝地域公共交通活性化協議会より十勝地域の交通計画の内容及び対象範囲が示された段階で、事務局において帯広市単独の交通計画策定の是非も含めた対応方法を整理した上で、改めて当協議会において協議することとしてよろしいか、提案するものです。

なお、次回の協議時期につきましては、10月中旬に協議が実施できるよう調整を進めてまいります。

【回答書記載事項】

以上、報告事項4件に対するご意見等、及び協議事項5件に対する承認または不承認並びにご意見等について、別紙回答書によりご報告くださいますよう、お願い申し上げます。

令和 2 年度 事業報告

令和 2 年

- 7 月 1 6 日 令和 2 年度第 1 回協議会開催（書面協議）
- ・ 令和元年度事業報告・決算報告・監査報告
 - ・ 令和 2 年度事業計画（案）・収支予算（案）
 - ・ 帯広市地域公共交通網形成計画に基づく事業の実施状況について

令和 3 年

- 1 ～ 3 月
- 中高生向けモビリティ・マネジメント（MM）小冊子作成・配布
- ・ 市内中学 3 年生及び高校 1、2 年生への配布
- 転入者向け MM 小冊子作成・配布
- ・ 戸籍住民課窓口にて配布
- 高齢者向け MM 小冊子作成・配布
- ・ 高齢者福祉課窓口及び地域交流サロン、地域包括支援センター等を通じて配布

令和2年度 収支決算書

収入の部

(単位:円)

項 目	予算額	決算額	増 △ 減	備 考
補助金	0	0	0	
負担金	70,000	70,000	0	バス事業者負担金 33,000円 帯広市負担金 37,000円
雑入	17,910	17,910	0	前年度繰越金 17,910円
計	87,910	87,910	0	

支出の部

(単位:円)

項 目	予算額	決算額	増 △ 減	備 考
事業費	80,000	78,034	△ 1,966	MM小冊子作成用紙等
事務費	7,910	550	△ 7,360	振込手数料
計	87,910	78,584	△ 9,326	

収入額 87,910円 - 支出額 78,584円 = 繰越額 9,326円

会 計 監 査 報 告 書

令和2年度帯広市地域公共交通活性化協議会の会計について、
関係帳簿及び収入・支出証書の監査を行った結果、その処理が
いずれも適正であることを認めます。

令和3年 6月10日

監査委員 北海道十勝総合振興局 地域創生部

地域政策課 主幹 山田 貴弘



令和2年度 帯広市地域公共交通網形成計画に係る施策の実施状況

※資料中、「(継続)」は過年度から継続実施している取組を表す。

基本方針1 公共交通のサービスレベル向上

1 市内バス路線及びダイヤの見直し

路線名	運行事業者	実施内容
おでかけ楽々便(おおぞらいナー)	十勝バス	将来的な交通のあり方などを検証するため、大空団地内の自宅と路線バス「大空団地線」バス停を結ぶデマンド型タクシーの実証運行を実施。
南商業高校線 帯広の森線	拓殖バス	道路状況に即したスムーズな運行を行えるよう、一部停留所間の運行区間時分の見直しを実施。
帯広の森線	拓殖バス	利用者からの要望により、帯広の森直行便を新設(増便)。
(帯広厚生病院経由便)	拓殖バス	帯広厚生病院運行便及び病院内への乗り入れの可能性について検討。(継続)

※帯広市を含む複数市町村を運行する路線のうち、主に市外運行部分に関わる変更については記載省略。

※このほか、新型コロナウイルス感染症による利用者減少に伴う減便を実施。(詳細は資料12参照)

2 定時性の確保等に向けた取り組み

- ・冬期間における道路管理者への運行経路上の除雪等対策の要望や、遅延発生路線への代替便による対応を実施。(継続)【十勝バス・拓殖バス】
- ・冬期間の通勤時間帯における渋滞緩和に向けた、エコ通勤やノーカーデーの取組を実施。(継続)【十勝バス・拓殖バス】
- ・WAON カード利用可能路線の追加及び全車両へのQRコード決済導入により、運賃支払にかかる時間を短縮。【十勝バス・拓殖バス※】※拓殖バス：QRコード決済導入のみ
- ・降雪時の遅延発生を見込んだダイヤ設定を実施。【拓殖バス】

3 バス待合環境の改善に向けた取り組み

- ・イオン帯広店内にデジタルサイネージを設置。【十勝バス】
- ・バスターミナルおびくるのデジタルサイネージの表示内容を改善。【十勝バス】
- ・新たなバスロケーションシステムを活用してバス運行情報等を表示するデジタルサイネージの設置について、バス停付近の歯科医院と調整。【拓殖バス】
- ・帯広駅バスターミナルのりばの再編、市内郵便局・商業施設等におけるバス待合スペース設置・案内表示充実に向けた検討(継続)【十勝バス・拓殖バス】

4 ICカードシステムの導入

- ・路線バスの全車両にQRコード決済を導入。【十勝バス・拓殖バス】
- ・バスターミナルおびくる窓口でのQRコード決済に対応。【拓殖バス】
(※十勝バスは令和元年度に実施済)
- ・大空団地線におけるWAONカード決済の実証実験を実施。【十勝バス】
- ・スマホによる通学定期券の試験運用を実施。【十勝バス】

基本方針2 生活と交通の拠点の整備

1 乗り継ぎ拠点の設置

- ・西地区の交通結節点（乗り継ぎ拠点）の設置に向けて、MEGA ドン・キホーテ西帯広店における駐車場内へのバス車両出入の実施可能性を検証。【十勝バス】
→検証の結果、駐車場内における自家用車との交通整理が困難であることから、実施を見送ることとなった。

2 デマンド型交通の利便性向上

- ・大空地区において、デマンド型乗合タクシー「おでかけ楽々便（おおぞライナー）」の実証運行を実施（R2.10.1～）。【十勝バス】

3 多様な移動手段との連携の検討

- ・大空地区での「おでかけ楽々便（おおぞライナー）」の実証運行にて、デマンド型乗合タクシーと路線バスとの連携について検証。【十勝バス】
- ・十勝圏二次交通活性化推進協議会における取組として、観光面における路線バスとタクシーが連携したサービス（バス&タクシーパック）を実施（継続）。令和2年度は新たに「十勝ガールズ農場」へのバス&タクシーパックを発売。【十勝バス】

基本方針3 市民だけでなく、来街者にも分かりやすい情報提供の実施

1 バスロケーションシステム等の普及

- ・Google マップにおける遅延・運休などのリアルタイム運行情報の掲載や、バスターミナルおびくる等のデジタルサイネージ上での運行情報の表示を実施。【十勝バス・拓殖バス】
- ・既存のバスロケーションシステムに代わり、新たなバスロケーションシステム「拓バスマップ」（テスト版）を導入。【拓殖バス】

2 分かりやすい時刻表の作成

- ・大空団地線バス停の時刻表デザインを、平日と土日祝日を分割して表記。【十勝バス】

3 施設ごとの情報提供機能の充実

- ・バスターミナルおびくるの AI 窓口の機能改善。【十勝バス】
- ・バスターミナルおびくるでの目的地別乗り場案内チラシの作成・配布。【拓殖バス】
- ・運行系統略図を作成し、バス車内に掲示。【拓殖バス】

4 外国人観光客にわかりやすい案内表示の整備

- ・バスターミナルおびくるに翻訳タブレットを設置。【十勝バス】
- ・郊外線において一部外国語対応の案内放送及び案内図作成を実施。【拓殖バス】
- ・Google マップでの経路検索における多言語対応を実施。【拓殖バス】
- ・バス停留所の名称に英語表記を追加（随時実施）。【拓殖バス】
- ・観光客向け目的別案内図の看板設置、紙媒体での配布、ホームページ上での公開を実施。【拓殖バス】

5 企画乗車券（バスパック等）の利用促進

- ・JTB と連携し、一部の日帰り路線バスパック商品のインターネット上での購入に対応。**【十勝バス】**
- ・北海道の「シームレス交通戦略推進会議」にて実施した「十勝 MaaS プロジェクト」において、路線バスと飲食店等を組み合わせた電子チケット販売の実証実験を実施。**【十勝バス・拓殖バス】**
- ・VISIT TOKACHI PASS について、期間限定で日本国内旅行者向けに販売。**【十勝バス・拓殖バス】**

基本方針4 利用促進施策の推進

1 モビリティ・マネジメント施策の展開

【小学生向け】

- ・市内在住の小学生を対象として、毎月第3日曜日に帯広市内区間に限り無料で乗車できる「バスに乗って見隊！」を実施。（継続）**【拓殖バス】**
- ・市内小学校において行政、バス事業者等による出前講座「交通環境学習」を実施。4校で5回開催、336名の児童が受講した。（継続）**【市・バス事業者ほか】**

【中学生向け】

- ・市内の中学3年生（14校、約1,300名）を対象に、路線バスの利用方法やバスの環境への優位性など、バス利用の動機付け情報を掲載した小冊子を作成・配布し、翌年度の高校通学時におけるバス利用の促進を図った。（継続）**【協議会事業】**

【高校生向け】

- ・市内の高校に通学する高校1・2年生（8校、約3,400名）を対象に、路線バスの利用方法やバスの環境への優位性など、バス利用の動機付け情報を掲載した小冊子を作成・配布し、通学時におけるバス利用の促進を図った。（継続）**【協議会事業】**

【転入者向け】

- ・市内転入者へ向けて、路線バスの利用方法や環境、健康等に関する動機付け情報を掲載した小冊子を作成、配布し、通勤や日常生活におけるバス利用の促進を図った。（継続）**【協議会事業】**

【高齢者向け】

- ・市内の高齢者へ向けて、路線バスの利用方法や環境、健康等に関する動機付け情報を掲載した小冊子を作成、配布し、日常生活におけるバス利用の促進を図った。**【協議会事業】**

※帯広市、バス事業者等が連携して例年実施している帯広市高齢者学級を対象とした出前講座については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止。

帯広市地域公共交通網形成計画 評価指標達成状況

基本方針1 公共交通のサービスレベル向上							
(1) 路線バス利用者数							
把握する指標	市内完結路線における路線バス年間利用者数						
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
目標値(人)	-	-	3,369,900	3,389,900	3,410,000	3,430,200	3,450,600
実績値(人)	3,350,075	3,356,486	3,379,745	3,392,443	3,445,013	2,580,816	-
達成率	-	-	100.3%	100.1%	101.0%	75.2%	-
(2) 公共交通での通学者数							
把握する指標	通学定期券年間販売数						
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
目標値(人)	-	-	12,230	12,303	12,376	12,449	12,523
実績値(人)	12,158	11,373	10,884	12,407	9,813	7,159	-
達成率	-	-	89.0%	100.8%	79.3%	57.5%	-

基本方針2 生活と交通の拠点の整備							
(3) デマンド型交通利用者数							
把握する指標	あいのりタクシー及びあいのりバスの年間利用者数						
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
目標値(人)	-	-	16,510	16,510	16,510	16,510	16,510
実績値(人)	16,504	16,988	17,136	15,782	14,639	10,626	-
達成率	-	-	103.8%	95.6%	88.7%	64.4%	-

基本方針3 市民だけでなく、来街者にも分かりやすい情報提供の実施							
(4) 路線バスの観光目的利用者数							
把握する指標	バスパック年間利用者数						
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
目標値(人)	-	-	5,795	6,095	6,395	6,695	6,995
実績値(人)	5,195	5,414	6,573	6,348	7,093	2,145	-
達成率	-	-	113.4%	104.2%	110.9%	32.0%	-
(5) 訪日外国人の路線バス利用者数							
把握する指標	バスロケーションシステムの外国語表示閲覧数						
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
目標値(ビュー)	-	-	1,800	3,600	5,400	7,200	9,000
実績値(ビュー)	-	-	1,130	-	-	-	-
達成率	-	-	62.8%	-	-	-	-

※システム開発元において件数集計ができなくなったため、平成30年度以降の件数不明。

《参考数値》 外国人観光客向けVISIT TOKACHI PASS販売件数							
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
実績値(件)	-	-	183	713	644	49	-

※平成29年度は平成29年11月以降の数値。

基本方針4 利用促進施策の推進							
(6) 高齢者の路線バス利用者数							
把握する指標	70歳以上の路線バス利用者数(高齢者おでかけサポートバス年間利用者数)						
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
目標値(人)	-	-	964,385	973,841	983,391	993,034	1,002,800
実績値(人)	955,020	921,331	942,181	998,644	978,718	723,812	-
達成率	-	-	97.7%	102.5%	99.5%	72.9%	-
(7) ノーカード参加者数							
把握する指標	ノーカード年間参加者数						
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
目標値(人)	-	-	6,210	6,240	6,280	6,320	6,350
実績値(人)	6,169	5,906	6,276	5,647	6,314	6,882	-
達成率	-	-	101.1%	90.5%	100.5%	108.9%	-

※平成30年度については、北海道胆振東部地震により9月分未実施。

令和 3 年度 事業計画（案）

1 モビリティ・マネジメント施策の展開

【中学生向け】

- ・ 高校、専門学校等への進学が予定されている市内の中学 3 年生を対象に、路線バスの利用方法や通学方法、環境問題、安全性などの動機付け情報を掲載した小冊子について、内容の改善を図りながら継続して作成・配布し、通学におけるバス利用の促進を図る。

【高校生向け】

- ・ 市内の高校に通う高校生を対象に、路線バスの利用方法や環境問題、安全性などの動機付け情報を掲載した小冊子について、内容の改善を図りながら継続して作成・配布し、通学におけるバス利用の促進を図る。

【転入者向け】

- ・ 市内転入者へ向けて、路線バスの利用方法や環境、健康等に関する動機付け情報を掲載した小冊子について、内容の改善を図りながら継続して作成、配布し、通勤や日常生活におけるバス利用の促進を図る。

【高齢者向け】

- ・ 市内高齢者へ向けて、路線バスの利用方法や環境、健康等に関する動機付け情報を掲載した小冊子について、内容の改善を図りながら継続して作成、配布し、日常生活におけるバス利用の促進を図る。

令和3年度 収支予算書(案)

収入の部

(単位:円)

項 目	前年度予算額	本年度予算額	増 △ 減	備 考
補助金	0	0	0	
負担金	70,000	110,000	40,000	バス事業者負担金 54,000円 帯広市負担金 56,000円
雑入	17,910	9,326	△ 8,584	前年度繰越金 9,326円
計	87,910	119,326	31,416	

支出の部

(単位:円)

項 目	前年度予算額	本年度予算額	増 △ 減	備 考
事業費	80,000	105,380	25,380	公共交通利用促進 小冊子作成・配布経費
事務費	7,910	13,946	6,036	消耗品費 振込手数料等
計	87,910	119,326	31,416	

令和3年度 帯広市地域公共交通網形成計画に係る施策の実施内容（案）

※資料中、「(継続)」は過年度から継続実施している取組を表す。

基本方針1 公共交通のサービスレベルの向上

1 市内バス路線及びダイヤの見直し

【実施済路線】

路線名	運行事業者	実施内容
おでかけ楽々便（おおぞらいナー）	十勝バス	昨年度の実証結果や利用客の意見・要望等を踏まえ、以下のとおり運行内容を見直して実証運行を継続。 ・大空町内の乗降場所を自由化 ・行先に「帯広の森はぐくむ」、「北斗病院」、「イトーヨーカドー」を追加 ※R3.5.24 実施

【実施検討路線】

路線名	運行事業者	実施内容
(帯広厚生病院経由便)	拓殖バス	帯広厚生病院運行便及び病院内への乗り入れについて検討。(継続)

※帯広市を含む複数市町村を運行する路線のうち、主に市外運行部分に関わる変更については記載省略。
※このほか、新型コロナウイルス感染症による利用者減少に伴う路線見直し・減便・路線廃止等を実施。(詳細は資料12参照)

2 定時性の確保等に向けた取り組み

- ・冬期間の道路管理者への除雪等対策の要望や、遅延発生路線への代替便による対応を実施。(継続)【十勝バス・拓殖バス】
- ・冬期間の通勤時間帯における渋滞緩和に向けた、エコ通勤やノーカーデーの取組を実施。(継続)【十勝バス・拓殖バス】
- ・降雪時に遅延が発生しやすい区間等について、状況に応じたダイヤの見直しを実施。(継続)【拓殖バス】

3 バス待合環境の改善に向けた取り組み

- ・帯広郵便局以外の郵便局や商業施設等におけるバス待合スペースの設置や時刻表・案内表示の充実に向けた検討。(継続)【十勝バス・拓殖バス】
- ・バス停付近の歯科医院にデジタルサイネージを設置するほか、他のバス路線沿線施設へのデジタルサイネージ設置を検討。【拓殖バス】
- ・帯広駅バスターミナルのりばの再編を検討。(継続)【十勝バス・拓殖バス】

4 ICカードシステム導入に向けた実証試験の実施

- ・キャッシュレス決済の拡充として、スマホアプリによる回数券、「帯広市内 1DAY 乗り放題券」、「十勝 2DAY 乗り放題券」を販売。【十勝バス】
- ・QRコード決済の利用促進及び利便性 PR のため、ポイント還元キャンペーン等の実施を検討。【拓殖バス】

基本方針2 生活と交通の拠点の整備

1 乗り継ぎ拠点の設置検討

- ・円滑な乗り継ぎが可能となるよう、交通結節点における乗り継ぎ拠点の設置について、運行ダイヤ調整や停留所の集約なども含めて可能性を検討。【十勝バス・拓殖バス・帯広市】

2 デマンド型交通の利便性向上及び市街地における導入検討

- ・大空団地における「おでかけ楽々便（おおぞライナー）」の実証運行を継続。昨年度の実証結果や利用者の意見等を踏まえ、今年度は「帯広の森はぐくむ」や「北斗病院」、「イトーヨーカドー」へ運行範囲を拡大して実施。【十勝バス】
- ・路線運行が非効率と考えられる地区におけるデマンド型交通の導入可能性を検討。（継続）【拓殖バス】

3 多様な移動手段との連携の検討

- ・年末深夜バスにおけるタクシーとの連携を実施。（継続）【十勝バス】
- ・JRと路線バスの乗り放題チケットの販売。【十勝バス・拓殖バス】
- ・十勝圏二次交通活性化推進協議会における取組として、観光面における路線バスとタクシーが連携したサービス（バス&タクシーパック）を実施。（継続）【十勝バス】
- ・自転車との連携を図るため、路線バスにキャリヤの設置を検討。【拓殖バス】

基本方針3 市民だけでなく、来街者にも分かりやすい情報提供の実施

1 バスロケーションシステム等の普及

- ・Google マップやバスターミナル等のデジタルサイネージにおける遅延・運休などのリアルタイム運行情報の表示及び内容の改善。（継続）【十勝バス・拓殖バス】

2 分かりやすい時刻表の作成

- ・ポケット時刻表について、各時刻表間でバラツキのある掲載情報を統一・整理し、より見やすくなるよう改善。【十勝バス】
- ・病院利用客の利便性向上のため、路線別の乗継時刻表の作成を検討。（継続）【拓殖バス】
- ・平日と休日のダイヤを区分して表示した標柱時刻表作成を検討。【拓殖バス】

3 情報提供機能の充実

- ・バスターミナルおびくるのデジタルサイネージによる情報提供内容の充実。（継続）【十勝バス・拓殖バス】
- ・バスターミナルおびくるのAI窓口の機能改善。（継続）【十勝バス】
- ・帯広駅バスターミナル周辺の案内図等の改善を検討。（継続）【十勝バス・拓殖バス】

4 外国人観光客向けの案内表示の整備

- ・バス停留所の改修に合わせたバス停留所の外国語対応や、外国人利用客の多い路線や停留所への外国語案内放送を随時実施。（継続）【十勝バス・拓殖バス】

- ・十勝圏二次交通活性化推進協議会において協議したインバウンド観光対応の問題点や課題について、感染症の状況を見ながら対応を検討（時刻表の多言語化、乗務員向け外国人コミュニケーションツールの作成等）。（継続）【十勝バス・拓殖バス】

5 企画乗車券（バスパック等）の利用促進

- ・バス事業者ホームページや SNS、バスターミナルおびくる等におけるバスパック商品や「VISIT TOKACHI PASS」等の PR。（継続）【十勝バス・拓殖バス】
- ・利用客の選択肢の拡大を目的とした、日帰り路線バスパックのクーポン内容のリニューアル。【十勝バス】

基本方針4 利用促進施策の推進

1 モビリティ・マネジメント施策の展開

【小学生向け】

- ・市内在住の小学生を対象として、毎月第3日曜日に帯広市内区間に限り無料で乗車できる「バスに乗って見隊！」を実施。（継続）【拓殖バス】
- ・市内の小学校に通う小学生を対象とした、行政、バス事業者等による出前講座「交通環境学習」を実施。（継続）【市・バス事業者ほか】

【中学生向け】

- ・通学におけるバス利用の促進を目的として、高校、専門学校等に進学予定の市内の中学3年生を対象に、路線バスの利用方法や通学方法、環境問題などの動機付け情報を掲載した小冊子を作成・配布。（継続）【協議会事業】

【高校生向け】

- ・通学におけるバス利用の促進を目的として、市内の高校に通学する高校生を対象に、路線バスの利用方法や環境問題などの動機付け情報を掲載した小冊子を作成・配布。（継続）【協議会事業】

【転入者向け】

- ・通勤や日常生活におけるバス利用の促進を目的として、市内転入者を対象に、バスの利用方法や環境、健康等に関する動機付け情報を掲載した小冊子を作成・配布。（継続）【協議会事業】

【高齢者向け】

- ・日常生活におけるバス利用の促進を目的として、市内高齢者を対象として、バスの利用方法や環境、健康等に関する動機付け情報を掲載した小冊子を作成、配布。【協議会事業】
- ・帯広地区のトヨタ販売店と共同で、大空団地の70歳以上を対象に、「70歳からの暮らしの足体験会」を実施。【十勝バス】

※帯広市、バス事業者等が連携して例年実施している帯広市高齢者学級を対象とした出前講座については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止。

帯広市地域公共交通網形成計画 事業スケジュール・進捗状況一覧表

令和3年7月現在

基本方針	施策項目	施策メニュー	実施主体	事業スケジュール・進捗状況					
				H29	H30	R1	R2	R3	
(1) 公共交通のサービスレベルの向上	利用実態やニーズを踏まえた効率的な路線の再編とダイヤの見直し	バス路線の再編 バスダイヤの見直し	交通事業者	・見直し内容検討 一部見直し実施	・路線・ダイヤ見直し実施(帯広厚生病院移転関連等)	・JR・都市間バスとの接続改善等を目的とした路線・ダイヤ見直し実施	・状況に即した路線・ダイヤ見直し検討、随時実施【 継続 】		
	定時性の確保等	定時性の確保等に向けた検討	交通事業者、帯広市	・遅延状況の把握、状況に応じた対応策の検討・実施【 継続 】					
	待合環境の改善	待合環境の改善に向けた検討	交通事業者、帯広市	・イオン店舗内待合スペース設置	・郵便局内への待合スペース設置 ・バス停上屋・ベンチの設置	・バス停上屋の設置	・イオン店舗内へのデジタルサイネージ設置 ・バスターミナルおびくるデジタルサイネージの表示内容改善 ・バスターミナルのりばの再編検討【 継続 】 ・デジタルサイネージ設置施設の拡大及び内容拡充【 継続 】		
		帯広駅バスターミナル待合所の老朽化対策	帯広市、交通事業者	・「バスターミナルおびくる」整備【 H29完了 】					
新しい運賃制度の検討	ICカードシステム導入の検討	交通事業者	《商業系電子マネー(WAONカード決済)》 ・導入実証実験準備 ・実証実験実施、本格導入検討【 継続 】 《QRコード決済システム》 ・導入検討 ・バスターミナルおびくる窓口でのQRコード決済対応 ・路線バス全車両での運賃QRコード決済対応						
(2) 生活と交通の拠点の整備	生活交通の確保	乗り継ぎ拠点の設置	交通事業者、帯広市	・拠点候補施設への設置検討(H28~) ・MEGAドン・キホーテ駐車場のバス車両乗入れ検証(R2)					
		デマンド型交通の利便性向上	帯広市、交通事業者	《農村部デマンド型交通の利便性向上》 ・あいのリインターネット予約開始 ・既存デマンド型運行の改善【 継続 】 《市街地における新規導入》 ・導入検討 ・大空地区における実証実験運行実施【 継続 】					
		多様な移動手段の連携による利便性向上	交通事業者	・観光等でのバス・タクシー連携実施【 継続 】 ・生活交通におけるバスとタクシー・自転車との連携検討【 継続 】 ・バスとJRとの連携検討・実施【 継続 】					
(3) 市民だけでなく、来街者にも分かりやすい情報提供の実施	交通情報発信の機能充実	バスロケーションシステム等の普及	交通事業者	(H28~バスロケーションシステム「PINA」、乗り換え情報案内システム「もくいく」導入) ・バスロケーションシステム内容改善の検討、実施【 継続 】 ・バスロケーションシステムの普及拡大、利用促進【 継続 】 ・Googleマップ路線検索対応 ・事業者HPIにおけるオープンデータ(GTFS)公開 ・乗換案内コンテンツプロバイダ各社での路線検索対応 ・GTFS-RTオープンデータ構築・リアルタイム運行情報提供					
	バス利用の基本情報の提供	分かりやすいバスマップの作成 (継続)	帯広市、交通事業者	・「おびひろバスマップ」更新・配布 ・リニューアル版「おびひろバスマップ」作成・配布【 H30完了 】					
		分かりやすい時刻表の作成	交通事業者	・内容改善⇒作成、配布(随時)【 継続 】					
	インバウンド観光への対応	施設ごとの情報提供機能の充実	交通事業者	・内容検討	・おびくるデジタルサイネージ、AI窓口設置 ・ターミナル案内看板改善	・AI窓口の機能改善【 継続 】 ・情報提供手段、内容の拡充(随時)【 継続 】			
外国人観光客に分かりやすい案内表示の整備		交通事業者	・一部バス停留所の多言語化対応	・一部バス停留所、案内放送の多言語化対応【 継続 】 ・インバウンド観光対応の検討、随時実施【 継続 】	・Googleマップ経路検索の多言語対応				
	企画乗車券(バスパック等)の利用促進 (継続)	交通事業者	・事業者HP、バス待合所等でのPR・利用促進【 継続 】 ・SNSによるPR・利用促進【 継続 】 ・バスパック商品のインターネット購入対応						
(4) 利用促進施策の推進	モビリティ・マネジメント(MM) 施策の展開	小学生向けMMの実施 (継続)	帯広市、交通事業者	・出前講座「交通環境学習」の実施【 継続 】					
		中学生向けMMの実施	帯広市、交通事業者	・バス利用動機付けツール(小冊子)作成・配布	・ツール内容改善、配布【 継続 】				
		高校生向けMMの実施	帯広市、交通事業者	・バス利用動機付けツール(小冊子)作成・配布	・ツール内容改善、配布【 継続 】				
		住民向けMMの実施	帯広市、交通事業者	・バス利用動機付けツール(小冊子)作成・配布	・ツール内容改善、配布【 継続 】				
		高齢者向けMMの実施 (継続)	帯広市、交通事業者	・高齢者学級出前講座の実施【 継続 】	・バス利用動機付けツール(小冊子)作成・配布 ・ツール内容改善、配布【 継続 】				
		ノーカーダーの取組 (継続)	帯広市、交通事業者	・取組の継続実施、普及啓発【 継続 】					

※凡例… : 完了・実施済 / : 継続実施

新型コロナウイルス感染症による公共交通機関への影響等について

1 新型コロナウイルス感染症による路線バス・タクシー事業への影響について

- 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う市民の外出自粛等の影響を受け、昨年3月以降の路線バス・タクシー利用者が大幅に減少。
- 令和2年（1～12月）は路線バス・タクシーともに対前年比で利用者が約3割減少しており、現在に至るまで利用者及び運送収入の減少が継続。運行収支の悪化に加え、特にタクシー事業者においては乗務員の離職も進んでおり、運行維持が大変困難な状況となっている。

2 路線バス・タクシー事業者における感染症への対応について

路線バス・タクシー共通	感染症拡大防止	<ul style="list-style-type: none"> ● 全従業員のマスク着用の徹底 ● 運転手の出勤・点呼時の検温実施 ● 発熱がある際の出勤停止 ● 車内における換気、消毒の徹底 ● 車内へのアルコール消毒液の設置 ● 車内への光触媒（抗菌・抗ウイルス）コーティング施工 ● キャッシュレス決済の導入 ● 乗務員や事務職員の社内感染防止対策（パーティション設置等）
	利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ● 感染防止の取組や車内での感染リスクが小さいことについてホームページなどでPR
路線バス	感染症拡大防止	<ul style="list-style-type: none"> ● 運転席・バスターミナルおびくる窓口への感染防止カーテンの設置 ● 車内最前列（運転手後方）の座席使用停止 ● バス車内の運賃表示器を活用した感染拡大防止のPR
	収支改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 外出自粛等による利用減少に対応したダイヤ改正の実施（路線見直し・減便・路線廃止等） <p>【十勝バス】 大空団地線（国道38号線経由・白樺通経由）／循環線・循環（記念病院）線／音更線／南商線・南商あかしや線／学園通線／西地区コミュニティバス</p> <p>【拓殖バス】 一中・療養所線／運転免許試験場線／南商業高校線／帯広の森線</p>
タクシー	感染症拡大防止	<ul style="list-style-type: none"> ● オゾン発生機能付き空気清浄機の設置 ● 座席に掛ける布の定期的な洗濯 ● 運賃の受渡時における手袋着用 ● 車内加湿器による湿度維持
	収支改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 外出自粛等による利用減少に対応した減車

3 協議会における取組（案）

- 市内公共交通事業者が実施する感染症拡大防止・安心安全な車内環境整備の取組について、協議会（帯広市）ホームページやモビリティ・マネジメント小冊子などを活用して対外的にPRするなど、公共交通の利用回復・促進に向けた取組を実施。

背景

- 令和3年度末に「帯広市地域公共交通網形成計画」の計画期間が終了。
- 令和2年度に計画の根拠法令「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」が改正。法定計画が「地域公共交通計画」に改められ、原則として地方公共団体の計画作成が努力義務化。
- 令和3年4月、十勝総合振興局を中心として管内市町村等が参画する「十勝地域公共交通活性化協議会」が設立。同協議会において、十勝全域を対象範囲とする「地域公共交通計画」が令和4年度中に策定予定であるため、計画の空白期間が発生。

取組の進め方(案)

- 網形成計画期間終了後の計画空白期間においても、帯広市における持続可能な公共交通サービスの維持確保及び交通課題の解決に向けた施策を展開する必要がある。
- 計画空白期間については、「帯広市地域公共交通網形成計画」に掲げる基本方針をベースとし、実施すべき施策について協議会において協議しながら取組を進めることとしたい。

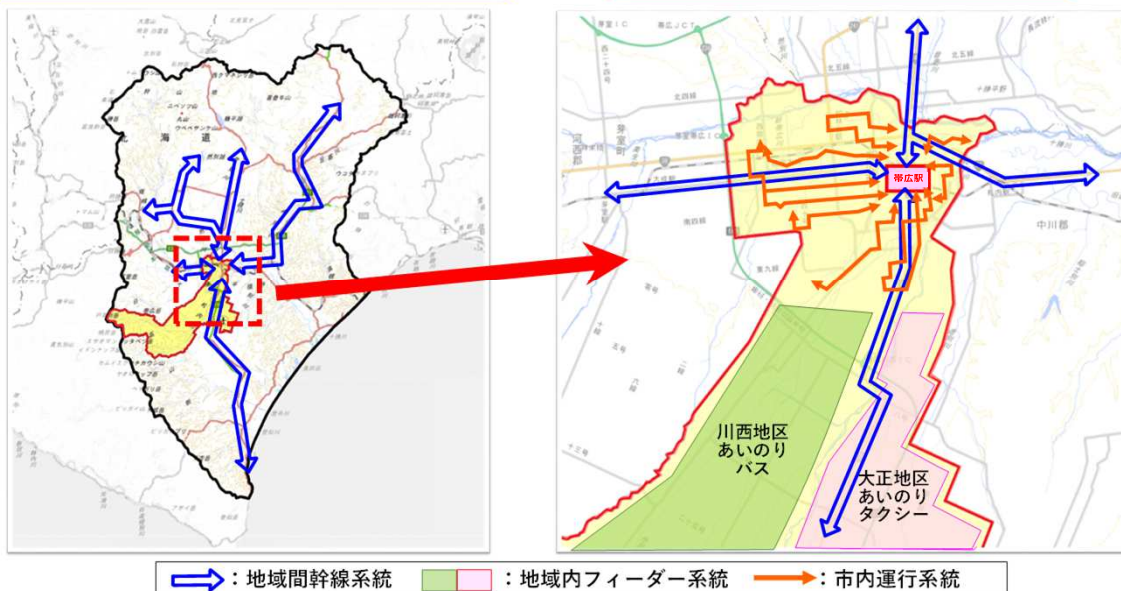
今後の交通計画策定に係る対応(案)

- 十勝地域の交通計画の中で帯広市における交通課題とその解決に向けた施策が位置づけられる場合、十勝地域の交通計画に基づき、帯広市における公共交通施策を実施する方法も考えられる。
- このため、十勝地域公共交通活性化協議会から十勝地域の交通計画の内容や方向性、整理される課題の対象範囲などが示された段階で、帯広市単独の交通計画策定の是非も含め、改めて市協議会において対応を協議することとしたい。

《参考》地域間幹線系統と帯広市内運行路線について

十勝地域における地域間幹線系統ネットワーク

帯広市内の公共交通ネットワーク



- 国土交通省発出の『地域公共交通計画等の策定と運用の手引き』では、「**広域的な移動と狭域的な移動を多層的に扱った計画策定が望ましい**」とされています。
- 帯広市は、帯広駅を中心に他町村と繋がる路線(広域的移動)と市内を運行する路線(狭域的移動)による公共交通ネットワークが形成されていることから、「地域公共交通計画」において、それぞれの路線における課題及び取り組むべき施策が盛り込まれる必要があるものと考えられます。
- 従って、帯広市における計画のあり方としては、以下の2パターンが想定されます。
 - ① 広域的移動・狭域的移動どちらも対象とする形で十勝地域交通計画を策定
 - ② 十勝地域交通計画では広域的移動、帯広市交通計画では狭域的移動を対象とする形で策定

帯広市地域公共交通網形成計画

(抜粋)

第4章 計画の目標及び目標達成のための施策

4-1 計画の目標

本計画の達成状況を評価するための評価指標及び現況値・目標値を以下に示す。

基本方針1 公共交通のサービスレベル向上

(1) 路線バス利用者数

路線バス利用状況を把握するための評価指標として、市内完結路線における路線バス年間利用者数を設定する。

表 4-1 路線バス利用者数

把握する指標		目標値		将来目標値設定の考え方	
		現況 (H27)	将来 (H33)		
市内完結路線における路線バス年間利用者数		3,350,075 人	3,450,600 人	路線バス利用者数は近年増加傾向であるが、人口は減少局面に入っていることから、概ね3%の増加を目標とする。	
年度別 目標値	年度 目標値	H29	H30	H31	H32
		3,369,900 人	3,389,900 人	3,410,000 人	3,430,200 人

(2) 公共交通での通学者数

高校生等の通学の利便性向上について把握するための評価指標として、通学定期券年間販売数を設定する。

表 4-2 公共交通での通学者数

把握する指標		目標値		将来目標値設定の考え方	
		現況 (H27)	将来 (H33)		
通学定期券年間販売数		12,158 人	12,523 人	路線バス利用者数同様、概ね3%の増加を目標とする。	
年度別 目標値	年度 目標値	H29	H30	H31	H32
		12,230 人	12,303 人	12,376 人	12,449 人

基本方針2 生活と交通の拠点の整備

(3) デマンド型交通²⁷利用者数

デマンド型交通の利便性向上について把握するための評価指標として、あいのりタクシー及びあいのりバスの年間利用者数を設定する。

表 4-3 デマンド型交通利用者数

把握する指標		目標値		将来目標値設定の考え方	
		現況 (H27)	将来 (H33)		
あいのりタクシー及びあいのりバスの年間利用者数		16,504 人	16,510 人	デマンド型交通利用者数は近年横ばいとなっており、人口は減少局面に入っていることから、概ね現状維持を目標とする。	
年度別	年度	H29	H30	H31	H32
目標値	目標値	16,510 人	16,510 人	16,510 人	16,510 人

²⁷ デマンド型交通：需要応答型の交通。利用する際に事前予約制とすることで、運行の効率化を図る。

基本方針3 市民だけでなく、来街者にも分かりやすい情報提供の実施

(4) 路線バスの観光目的利用者数

企画乗車券(バスパック等)の利用状況について把握するための評価指標として、バスパック年間利用者数を設定する。

表 4-4 路線バスの観光目的利用者数

把握する指標		目標値		将来目標値設定の考え方	
		現況 (H27)	将来 (H33)		
バスパック年間利用者数		5,195 人	6,995 人	現況の増加傾向から、概ね 300 人/年の増加を目標とする。	
年度別	年度	H29	H30	H31	H32
目標値	目標値	5,795 人	6,095 人	6,395 人	6,695 人

(5) 訪日外国人の路線バス利用者数

バスロケーションシステムの普及並びに多言語化の状況について把握するための評価指標として、バスロケーションシステムの外国語表示閲覧数を設定する。

表 4-5 訪日外国人の路線バス利用者数

把握する指標		目標値		将来目標値設定の考え方	
		現況 (H27)	将来 (H33)		
バスロケーションシステムの外国語表示閲覧数		—	9,000 ビュー	十勝総合振興局管内の外国人宿泊者数の概ね 10%の利用を目標とする。	
年度別	年度	H29	H30	H31	H32
目標値	目標値	1,800 ビュー	3,600 ビュー	5,400 ビュー	7,200 ビュー

基本方針4 利用促進施策の推進

(6) 高齢者の路線バス利用者数

高齢者の路線バスの利用状況について把握するための評価指標として、高齢者の路線バス利用者数を設定する。

表 4-6 高齢者の路線バス利用者数

把握する指標		目標値		将来目標値設定の考え方	
		現況 (H27)	将来 (H33)		
70 歳以上の路線バス利用者数 ※高齢者おでかけサポートバス年間利用者数		955,020 人	1,002,800 人	今後、高齢者人口、高齢化率ともに増加が見込まれることから、概ね 5% の増加を目標とする。	
年度別	年度	H29	H30	H31	H32
目標値	目標値	964,385 人	973,841 人	983,391 人	993,034 人

(7) ノーカーデー参加者数

ノーカーデーの取組状況について把握するための評価指標として、ノーカーデー年間参加者数を設定する。

表 4-7 ノーカーデー参加者数

把握する指標		目標値		将来目標値設定の考え方	
		現況 (H27)	将来 (H33)		
ノーカーデー年間参加者数		6,169 人	6,350 人	路線バス利用者数同様、概ね 3% の増加を目標とする。	
年度別	年度	H29	H30	H31	H32
目標値	目標値	6,210 人	6,240 人	6,280 人	6,320 人

4-2 目標達成のための施策及び事業

4-2-1 公共交通のサービスレベル向上

(1) 利用実態やニーズを踏まえた効率的な路線の再編とダイヤの見直し

① バス路線の再編 《地域公共交通再編事業》

[想定事業主体：交通事業者]

- ・バス OD 調査²⁸やアンケート調査の結果等を踏まえ、既存のバス利用者のニーズを踏まえつつ、運行の効率化により、持続可能な公共交通の確保に向け、バス事業者の採算性の向上を目指す。
- ・路線の再編に際しては、市内のバス事業者間で統一されていない系統番号や行き先表示等の整理、帯広駅バスターミナル内の発着場所の見直しを行う。

《路線再編にあたっての基本的な考え方》

- ・帯広駅周辺は、半径約 1km に市役所や帯広第一病院、イオン帯広店などの施設が立地しており、帯広駅端末ではなく、帯広駅を経由することで利用者ニーズを満たしている路線が存在していることから、交通拠点である帯広駅を中心としたネットワークを基本としつつも、利用者ニーズを踏まえた運行経路とする。
- ・また、公共施設や医療施設等についても、公共交通でのアクセス向上を図る。
- ・本市と周辺町村を結ぶ地域間幹線系統及び、市内の生活拠点を結ぶ基幹的な役割を果たす路線について経路の見直しを行い、利用者にとってわかりやすく、利便性の高い運行体系とする。
- ・平成 30 年に移転を予定している帯広厚生病院は、市内の主要観光施設の一つである帯広競馬場に隣接することから、観光需要と通院需要に対応した路線について検討する。
- ・運行収支が悪く、利用者数の極めて少ない路線については、運行方法も含めた抜本的な見直しを促進する。
- ・一定の運行便数があるものの利用者が極端に少ない区間は、運行経路を含めたサービスレベルの見直しを行う。

▼想定事業スケジュール

H29：路線検討、路線再編の実施（10月～）

H30：路線再編の見直しの実施（10月～）

²⁸ OD調査：人や物、自動車などが移動する起点 origin から終点 destination までを一体として把握する調査。起終点調査とも。

② バスダイヤの見直し 《地域公共交通再編事業》

[想定事業主体：交通事業者]

- ・「①バス路線の見直し」のタイミングに合わせ、通勤、通学、通院、買い物等の移動ニーズに合った運行ダイヤに再編する。
- ・二次交通としての機能を強化すべく、JRや都市間高速バスのほか、市街地ととから帯広空港間を結ぶ空港連絡バスとの接続についても見直しを行い、生活交通に留まらない、利便性の向上を目指す。

▼想定事業スケジュール

H29：ダイヤ検討、ダイヤ再編の実施（10月～）

H30：ダイヤ再編の見直しの実施（10月～）

(2) 定時性の確保等

① 定時性の確保等に向けた検討

[想定事業主体：交通事業者、帯広市]

- ・冬期間における路線バスの遅延について、遅延が発生しやすい時期や路面状況、降雪時の除雪状況などの現状を把握する。
- ・バスの遅延に対する利用者の不安・不満を解消するため、バスの到着情報を提供するバスロケーションシステムの普及（※4-2-3(1)①にて詳細後記）を推進するほか、安全運行の確保を図り、降雪状況に応じた円滑な除排雪の実施やバス専用レーン導入及び、未整備の都市計画道路の整備といった道路環境の向上など、定時性の確保に向けた対応策の検討を行う。

▼想定事業スケジュール

H29～：バスの遅延状況の把握、対応策の検討（以降、検討状況に応じ実施）

(3) 待合環境の改善

① 待合環境の改善に向けた検討

[想定事業主体：交通事業者、帯広市]

- ・買い物や通院などで利用する利用者にとって、バスの待ち時間を快適に過ごせる環境づくりは重要となることから、待合環境の改善を促進する。
- ・待合環境の改善にかかる事業者負担を抑える観点から、店舗スペースを待合所として活用する事例や、地域との協働による待合環境改善などの可能性について検討を行う。
- ・待合時間を見える化する対策として、バスロケーションシステムの普及を推進する。

※4-2-3 (1) ①にて詳細後記

《参考事例》

横浜市では、コンビニエンスストアチェーンと連携し、店舗内にバス接近表示機（タブレット型）を設置しており、待合スペースとして活用している。



(出典) 平成 25 年度 利用者・バス事業者双方にとって利便性が高いバス停留所のあり方についての調査業務報告書 (国土交通省北海道運輸局)

▼想定事業スケジュール

H29～：待合環境改善の検討（以降、検討状況に応じ実施）

② 帯広駅バスターミナル待合所の老朽化対策

[想定事業主体：帯広市、交通事業者]

- ・帯広駅バスターミナルは、帯広市及び十勝圏における二次交通の要の施設であるが、待合所の老朽化が進行していることから、公共施設マネジメントの考え方を踏まえ、老朽化対策を進める。
- ・老朽化対策を実施する際には、現在の窓口業務や案内機能、休憩機能に限らず、バリアフリーや今後、増加が想定される訪日外国人に対応した多言語表記の実施など、利便性の向上を図る。

▼想定事業スケジュール

H29～：老朽化対策の実施

(4) 新しい運賃制度の検討

① ICカード²⁹システム導入の検討

[想定事業主体：交通事業者]

- ・ ICカードシステムは、小銭の用意が必要ないため、運賃支払い時の利便性を向上させるとともに、支払い時間の短縮により定時性の確保にも効果があると考えられている。
- ・ また、ICカードの導入は、通学において事業者を跨いで乗継をする場合の共通通学定期券や乗継割引の導入など弾力的な運賃制度の導入が可能となるほか、収集データによる利用実態の把握など、効率的な運行に向けて幅広い活用が期待できることから、他地域の導入事例を参考にし、また事業者の導入コストの大きさを考慮に入れながら導入の検討を進める。



参考：J R 東日本 Suica

参考：旭川電気軌道 Asaca

(出典) J R 東日本ホームページ及び旭川電気軌道ホームページ

▼想定事業スケジュール

H29～：ICカードの導入に向けた検討（以降、検討状況に応じ実施）

²⁹ ICカード：(交通系)ICカードは、公共交通機関で運賃の支払いに利用できるICカードのこと。

4-2-2 生活と交通の拠点の整備

(1) 生活交通の確保

① 乗り継ぎ拠点の設置 《地域公共交通再編事業》

[想定事業主体：交通事業者、帯広市]

- ・帯広市の交通の中心である帯広駅と、郊外型商業施設や学校が集積している地区を乗り継ぎ拠点として、それら交通拠点の周辺的生活交通と合わせ一体的な交通利便の向上を図る。
- ・乗り継ぎが円滑となるよう、運行ダイヤの調整や、停留所の集約などを行い、交通結節点として利用しやすい環境づくりを行う。

▼想定事業スケジュール

H29：乗継円滑化の検討、関係機関との調整

H30：運用開始

② デマンド型交通³⁰の利便性向上 《地域公共交通再編事業》

[想定事業主体：帯広市、交通事業者]

- ・既存のデマンド型交通である「あいのりタクシー」及び「あいのりバス」について、運行区域や運行便数等の改善といった利用者ニーズへの対応により、利便性の向上を図る。
- ・郊外部だけでなく、市街地においても路線運行が非効率であると考えられる地区については、バス事業者や地域住民等と連携して地域ニーズを把握しながら、デマンド型交通の導入を検討する。



参考：あいのりタクシー



参考：あいのりバス

▼想定事業スケジュール

H29：サービス改善の検討、実施

³⁰ デマンド型交通：需要応答型の交通。利用する際に事前予約制とすることで、運行の効率化を図る。

③ 多様な移動手段の連携による利便性向上

[想定事業主体：交通事業者]

- ・バス停を交通結節点として捉えた場合、アクセス手段としては徒歩や自転車が想定される。自転車は、路線バスと競合する手段として見られることもあるが、バス停への駐輪スペース整備やバス車体へのラック設置等、自転車の利用環境を整備することにより喚起される需要も存在すると考えられる。
- ・また、高齢者や身体の不自由な方がバス停から自宅や目的地まで移動する際など、タクシーと連携することにより、利用者負担が軽く、ドアツードア性の高いサービスが提供できると考えられる。
- ・生活交通の利便性向上に向けて、路線バスと自転車、タクシーなど、多様な移動手段の連携を促進する。

▼想定事業スケジュール

H29：連携方策の検討、関係機関との調整

H30：運用開始（以後、利便性向上に向けたサービス改善の実施）

4-2-3 市民だけでなく、来街者にも分かりやすい情報提供の実施

(1) 交通情報発信の機能充実

① バスロケーションシステム³¹等の普及 《地域公共交通再編事業》

[想定事業主体：交通事業者]

- ・バスの位置情報を提供するバスロケーションシステムや乗り換え案内アプリについて、利用者への普及に向けた取り組みを推進する。
- ・「待合環境の改善に向けた検討」や「帯広駅バスターミナル待合所の老朽化対策」といった施策と連携し、集客施設や交通結節点等におけるデジタルサイネージの設置などにより、情報発信機能における利便性向上を図る。
- ・今後増加が予想される訪日外国人に対応するため、多言語化を推進する。

▼想定事業スケジュール

H29：運用開始（以後、利便性向上に向けたサービス改善の実施）

(2) バス利用の基本情報の提供

① 分かりやすいバスマップの作成 《地域公共交通再編事業》

[想定事業主体：帯広市、交通事業者]

- ・路線バスを利用する上で基本的な情報となるバス路線や運賃、支払い方法などを掲載している「おびひろバスマップ」について、本計画に基づく再編等に合わせた見直しを行い、発行する。
- ・発行に際しては、日本語のみならず、多言語化についても検討を行う。



参考：おびひろバスマップ

▼想定事業スケジュール

H29：路線再編によるバスマップの作成・配布

H30：路線再編及び内容見直しに伴うバスマップの作成・配布

³¹ バスロケーションシステム：GPS等を用いてバスの位置情報を収集し、バス停の表示板や携帯電話、パソコンに情報提供するシステム。

② 分かりやすい時刻表の作成 《地域公共交通再編事業》

[想定事業主体：交通事業者]

- ・路線図と時刻表が一体的に確認できるなど、初めて市内の路線バスを利用する人にも、日常的に利用している人にも使いやすく分かりやすい時刻表の作成を推進する。



参考：北海道拓殖バス(株)時刻表

▼想定事業スケジュール

H29：時刻表掲載内容の整理、時刻表の作成・配布

H30：路線再編の見直しに伴う時刻表の作成・配布

③ 施設ごとの情報提供機能の充実 《地域公共交通再編事業》

[想定事業主体：交通事業者]

- ・鉄道駅やバスターミナル、停留所などの交通施設のほか、公共施設内など待合環境として活用可能な施設において、バスの運行に関し提供されるべき必要な情報を整理し、情報提供機能の充実を図る。

参考：利用者にとって利用しやすいバス停留所の例
(出典)平成25年度 利用者・バス事業者双方にとって利便性が高いバス停留所のあり方についての調査業務報告書(国土交通省北海道運輸局)



▼想定事業スケジュール

H29～：情報提供内容の検討、情報提供の随時実施

(3) インバウンド観光³²への対応

① 外国人観光客に分かりやすい案内表示の整備 ‹地域公共交通再編事業›

[想定事業主体：交通事業者]

- ・人口減少に伴う公共交通の利用者減少が懸念されることから、利用増加に向け、外国人観光客にも分かりやすい公共交通の案内表示を整備する。
- ・案内表示の整備は、バスターミナル内の案内表示のほか、バスマップや車両方向幕の多言語化、バス停のナンバリングなど、必要性も含め広く検討を行い、必要に応じて実施する。



参考：札幌駅周辺バスのりば図（一般社団法人北海道バス協会）

▼想定事業スケジュール

H29～：案内表示内容の検討及び随時実施

② 企画乗車券（バスパック等）の利用促進 ‹地域公共交通再編事業›

[想定事業主体：交通事業者]

- ・市内のバス事業者が企画、販売しているバスパックについて、さらに利用促進を図るべく、バスターミナルだけでなく、駅や空港での情報発信を強化する。
- ・路線バスの利用促進と中心市街地の活性化を図るべく、バス事業者と商業者が連携して取り組みを行っている「買物バス券」について周知を拡大し、利用促進を図る。



参考：日帰り路線バスパック（十勝バス）

▼想定事業スケジュール

H29：バスパック等の利用促進の実施（継続）

³² インバウンド観光：地域の外から入ってくる旅行のこと。訪日外国人旅行のことを指す場合もある。

4-2-4 利用促進施策の推進

(1) モビリティ・マネジメント³³ (MM) 施策の展開

① 小学生向けMMの実施

[想定事業主体：帯広市、交通事業者]

- ・ 小学校における交通環境学習について、授業で活用できる教材の提供等により、小学校における自主的なMM教育の実践を図る。
- ・ 平成 19 年から継続的に実施している行政、バス事業者等による「出前講座」について、今後も連携して取り組みを実施していく。



▼想定事業スケジュール

H29～：交通環境学習の実施（継続）

② 中学生向けMMの実施

[想定事業主体：帯広市、交通事業者]

- ・ 高校や専門学校等に進学する市内の中学 3 年生を対象に、路線バスの利用方法や自宅から進学先までの公共交通での通学方法、環境問題を始めとする動機付け情報等の提供を行い、公共交通での通学を促進する。

▼想定事業スケジュール

H29～：利用促進策の検討及び随時実施

③ 高校生向けMMの実施

[想定事業主体：帯広市、交通事業者]

- ・ 市内の高校に通学する高校生を対象に、路線バスの利用方法や環境問題、交通事故の危険性等の動機付け情報等の提供を行い、公共交通での通学を促進する。

▼想定事業スケジュール

H29～：利用促進策の検討及び随時実施

³³ モビリティ・マネジメント：地域や都市を、「過度に自動車に頼る状態」から「公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度に（＝かしく）利用する状態」へと少しずつ変えていく一連の取り組み。

④ 住民向けMMの実施

[想定事業主体：帯広市、交通事業者]

- ・地域住民を対象に、再編路線の概要や利便性が向上されると考えられる項目等について情報提供を行い、路線再編の周知と利用促進を図る。
- ・市内への転入者に向けて、帯広市の公共交通網や利用方法などを周知するパンフレットの作成等を検討する。

▼想定事業スケジュール

H29～：利用促進策の検討及び随時実施

⑤ 高齢者向けMMの実施

[想定事業主体：帯広市、交通事業者]

- ・環境面だけでなく、健康、安全、費用の面から公共交通への理解を深めてもらい、自発的な交通手段転換を促す出前講座について、平成 21 年から継続的に実施している「帯広市高齢者学級（帯広市寿学級）」のほか、地域の交流サロン等における実施について、今後も行政・事業者が連携して取り組みを進めていく。



▼想定事業スケジュール

H29～：出前講座の実施（継続）

⑥ ノーカーデーの取り組み

[想定事業主体：帯広市、交通事業者]

- ・帯広市環境基本計画に基づき設立された帯広市環境保全推進会議により、平成 16 年 7 月から実施している、毎月第 1 金曜日の「ノーカーデー」の取組について、今後も、市役所を含む市民の団体の協力のもと、地域住民の理解を深めるよう継続的に環境配慮行動の取り組みを進めていく。

▼想定事業スケジュール

H29～：取り組みの実施（継続）

4-3 事業スケジュール

基本方針	施策項目	施策メニュー	想定実施主体	想定事業スケジュール				
				H29	H30	H31	H32	H33
公共交通のサービスレベル向上	利用実態やニーズを踏まえた効率的な路線の再編とダイヤの見直し	バス路線の再編	交通事業者	路線検討再編実施	再編実施	運行継続		
		バスダイヤの見直し	交通事業者	ダイヤ検討再編実施	再編実施	運行継続		
	定時性の確保等	定時性の確保等に向けた検討	交通事業者、帯広市	検討（検討状況に応じ実施）				
	待合環境の改善	待合環境の改善に向けた検討	交通事業者、帯広市	検討（検討状況に応じ実施）				
		帯広駅バスターミナル待合所の老朽化対策	帯広市、交通事業者	実施				
新しい運賃制度の検討	ICカードシステム導入の検討	交通事業者	検討（検討状況に応じ実施）					
生活と交通の拠点の整備	生活交通の確保	乗り継ぎ拠点の設置	交通事業者、帯広市	検討調整	運用開始			
		デマンド型交通の利便性向上	帯広市、交通事業者	改善検討、実施				
		多様な移動手段の連携による利便性向上	交通事業者	検討調整	運用開始			
市民だけでなく、来街者にも分かりやすい情報提供の実施	交通情報発信の機能充実	バスロケーションシステムの導入	交通事業者	運用開始				
	バス利用の基本情報の提供	分かりやすいバスマップの作成（継続）	帯広市、交通事業者	作成配布				
		分かりやすい時刻表の作成	交通事業者	作成配布				
		施設ごとの情報提供機能の充実	交通事業者	検討、随時実施				
	インバウンド観光への対応	外国人観光客に分かりやすい案内表示の整備	交通事業者	検討、随時実施				
企画乗車券（バスバック等）の利用促進（継続）		交通事業者	実施継続					
利用促進施策の推進	モビリティ・マネジメント（MM）施策の展開	小学生向けMMの実施（継続）	帯広市、交通事業者	実施継続				
		中学生向けMMの実施	帯広市、交通事業者	検討、随時実施				
		高校生向けMMの実施	帯広市、交通事業者	検討、随時実施				
		住民向けMMの実施	帯広市、交通事業者	検討、随時実施				
		高齢者向けMMの実施（継続）	帯広市、交通事業者	実施継続				
		ノーカーデーの取組（継続）	帯広市、交通事業者	実施継続				

4-4 計画の達成状況の評価

本計画の策定にあたっては、市民や交通事業者、行政などで構成する帯広市地域公共交通活性化協議会において、本市の今後の公共交通のあり方に関する調査・検討を行ったことから、達成状況の評価は、帯広市地域公共交通活性化協議会において実施する。

評価は、計画目標と定めた指標を基に、PDCA サイクルにより実施し、必要に応じて計画に基づく事業の実施内容に反映する。



図 4-1 PDCA サイクルのイメージ